

皆同じ視点で見ることができるよう

就業技術科

1 学年、2 学年 / 家政・福祉 フードサービス

使用アプリ : Microsoft Teams



- ① 写真を使用して正しい位置を覚える。
- ② 動画で工程を事前学習をさせ自身のどこまでできるか実践する。
- ③ 様々な要点を実践から学び、再度復習して定着を目指す。

きっかけ

- ◇限られた作業スペースのなかで全員が同じ視点で見ることが不可能。
- ◇視点が変わると重要なことがうまく伝わらず複数回説明を行うことになる。
- ◇動画なら何度も見ることが可能で説明に集中できる。質問にも答えやすくなる。

活用のポイント

- ◆Microsoft Teams などの全員が視聴できる場所に入れておくことで復習・予習がいつでも行える。
- ◆様々な視点やパターンを準備できる。
視聴した際の疑問・質問などを生徒自身が事前に準備できてスムーズに教員に確認できる。

成果 (○) と期待 (●)

- 皆が同じ視点で見ることができ、必要以上に説明を行うことがなくなりスムーズに取り組むことができた。
- 動画や画像を見直せば予習や復習ができ、取り組む際に効率が上がるとスキルアップつながるとよい。



東京都立水元小令学園

問題解決意欲の向上を促す

就業技術科

2 学年 / 流通・サービス ロジスティクスコース / 2 2 人

主な使用機器 : 児童・生徒用端末 (Microsoft SurfaceGo3)

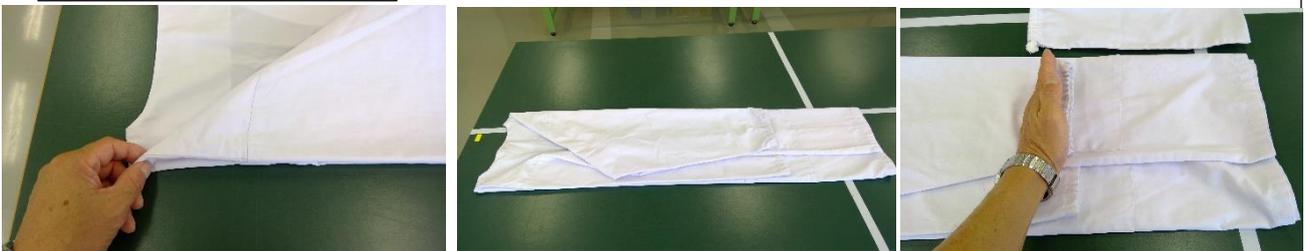
指導者用端末 (Microsoft Surface)

使用するアプリ : Microsoft Teams

(5)肩を4センチで、
つまんでおくとよい

(6)反対側もおる

(7)ふくろのおおきさに、
おる



- ① 1 回目の授業で、白衣折りの手本を見せる。
- ② 2 回目以降の授業では、Microsoft Teams に保存してある「白衣折り手順」の写真
を教員用パソコンとモニターを活用して示しながら説明をする。
- ③ 折り方が分からなくなった時に、教員に質問をする前に、生徒用端末で、自分で写真を
確認して、問題解決をするように促す。
- ④ 自分で問題解決をしようと試みたが、それでも分からない場合は、分からないままにせ
ず、質問するように指導する。

きっかけ

◇白衣折りの手順が分からなくなった時に、自分で問題解決を試みることなく、
すぐに質問する生徒がおり、自分で考
える機会を設定するために、手順の写
真を共有することにした。

活用のポイント

- ◆生徒用端末は、どの授業にも持って移動して
おり、使い慣れている。
- ◆Microsoft Teams も使い慣れており、
操作が容易である。
- ◆写真の表題に、順番と短い説明があり、次の
手順が分かる。

成果 (○) と期待 (●)

- 問題解決意欲の向上が見られる生徒がいた。
- 教員に安易に尋ねる生徒にこそ、写真を見て自分で手順を確認し、問題解決を図るように、
引き続き指導していく。



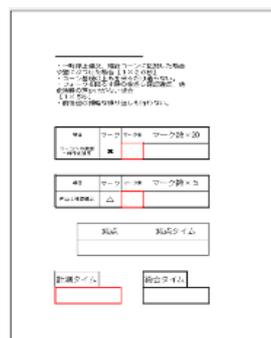
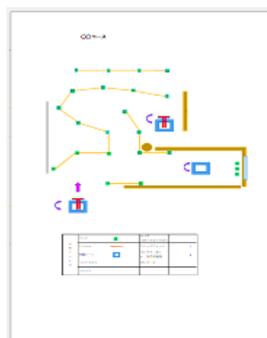
東京都立水元小令学園

生徒たちで進めるハンドリフト練習

就業技術科

3 学年 / 流通・サービス ロジスティクスコース / 2 1 人

主な使用機器：児童・生徒用端末 (Microsoft SurfaceGo3)



- ①準備：会場図をもとに必要な機器や道具の数と運搬方法を確認し、仲間と分担して運ぶ。会場図に合わせ適切な場所へ配置する。(写真左・図左)
- ②練習：作業者、時間計測者、試験官の役割分担を確認し、交代で操作練習を進める。試験官は必要に応じ、気付いたことを作業者に伝える。(図右)
- ③片付け：メンバーで協力し片付けを行う。安全で効率的な台車への積み方など、仲間と相談して積み込む。(写真右)
- ④入力と振り返り：紙データを児童・生徒用端末 (Microsoft SurfaceGo3) に入力する。視覚的に確認と振り返りを行う。

きっかけ

- ◇作業種の性格上、成果物を生み出す作業と異なり、成果を実感しにくい。年間を通して取り組んでいるハンドリフト操作練習について、スキルの向上を少しでも実感、理解しながら目標をもって取り組めないか？
- ◇会議室準備等指示書 (図面) を見て、生徒主体で協力して進められる力をつけて欲しい。

活用のポイント

- ◆パソコンを活用し、スキル向上を視覚的に実感できるようにした。
- ◆安全確認の見落とし、パレットの激突等のミスが減点時間とすることで成果基準を“時間”にまとめ分かりやすくした。
- ◆データをグラフ化し、練習成果を視覚的に理解する。

成果 (○) と期待 (●)

- 教員の声掛けが減り、少しずつ生徒たちで作業を進められるようになってきた。
- 主体的な作業を通し、作業への目標意識や意欲を高めていって欲しい。



東京都立水元小令学園

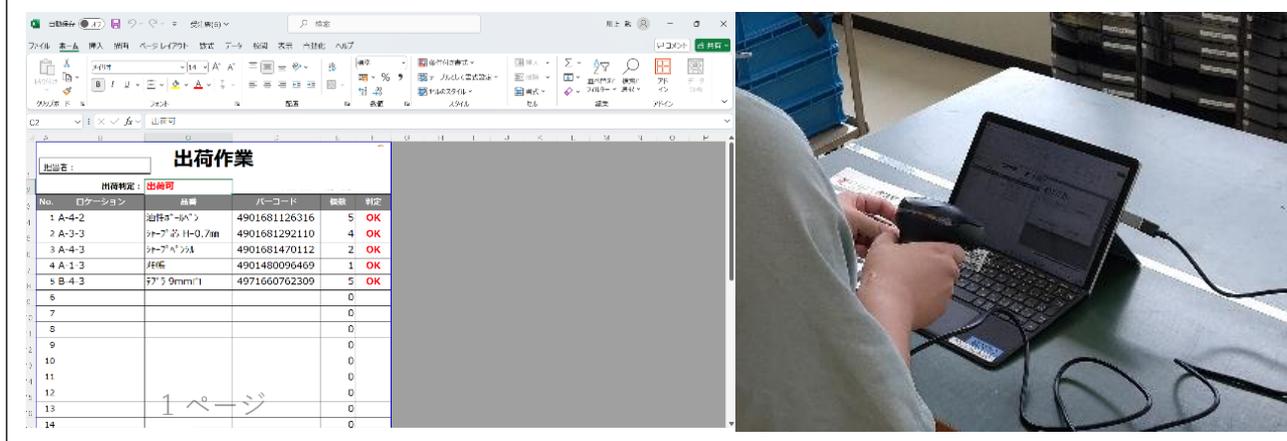
ロジスティクスの身近な ICT 活用

就業技術科

3 学年 / 流通・サービス ロジスティクスコース / 21 人

主な使用機器：児童・生徒用端末（Microsoft SurfaceGo3）、バーコードリーダー、

- ① 指示書を見る。
- ② 指示書を見て、指定された棚から指定された商品をピッキングする。
- ③ 指示書と同じ番号の Microsoft Excel を開き、商品をバーコードリーダーで読み込む。
- ④ Microsoft Excel に「出荷可」文字が出たら、出荷バスへ運ぶ。



きっかけ

- ◇生徒が興味をもって学べる教材として活用できないか、と考えた。
- ◇買い物学習と同じ事を倉庫でやることで、ピッキング作業を始めるきっかけとなればよい、と思った。

活用のポイント

- ◆簡単な作業で誰でも取り組める。
- ◆ピッキング用の棚を、スーパーマーケットの商品棚の学習へとつなげられる。
- ◆バーコードリーダーを身近な存在にできる。

成果 (○) と期待 (●)

- 手順が分かると、主体的に取り組む生徒が多かった。
- 教材の改良で、広がる要素が多い。



東京都立水元小台学園

安全作業に向けたタブレットの活用

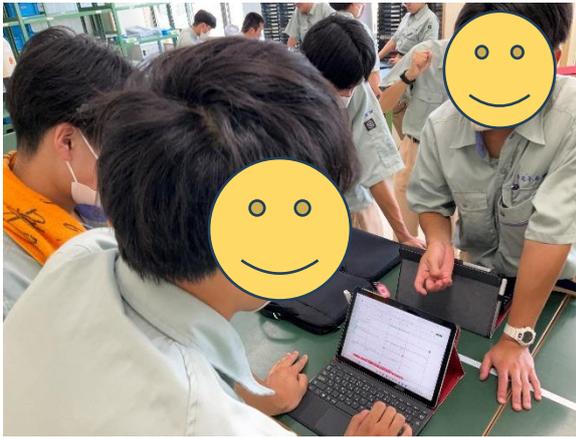
就業技術科

3 学年 / 流通・サービス ロジスティクスコース / 21 人

主な使用機器 : 児童・生徒用端末 (Microsoft SurfaceGo3)

使用アプリ : Microsoft Teams

活用の様子



きっかけ

- ◇作業内容を全員が知り、リーダーを中心にコミュニケーションを取りながら作業をして欲しい。
- ◇作業中に予想される危険とそれを避ける方法を考えて、安全に作業を行って欲しい。
- ◇作業後、良かったところや改善するところを話し合い、次回の作業の安全に活かして欲しい。

活用のポイント

- ◆授業開始までにパソコンから Microsoft Teams を使って、タブレット端末に今日の班分けと作業内容を入力した作業表を送信する。
- ◆班毎に今日の作業で予想される危険とその対応及び目標を話し合い、児童・生徒用端末 (Microsoft SurfaceGo3) に入力。
- ◆作業後、班毎に改善点などを話し合い児童・生徒用端末 (Microsoft SurfaceGo3) に入力。次回の作業に活かす。

成果 (○) と期待 (●)

- コミュニケーションをとり、協力して作業することが増えてきた。
- 作業中は常に危険が伴うことを意識し、事故の無いよう安全に作業を行うようになってきた。
- 今後は、更に安全な作業への意識が深まるようタブレット端末の活用方法を工夫していきたい。



東京都立水元小令学園

保健情報のデータベース化

就業技術科

就業技術科教員 / 66人

主な使用機器： 指導者用端末（TAIMS 端末）、Microsoft Excel

年	組	番	生徒名	性別	生年月日	部活動	アレルギー 食物、薬	アレルギー その他	病名	体育・緊急時 特記事項	日常的 配慮事項	主治医	服薬	てんかん発作 様子
学年 名前				男		パソコン部		スギ	自閉症スペクトラム症		見通しを持たせる。 (主治医より)	〇〇病院 △△医師		
				男		陸上競技部			軽度知的障害 てんかん	てんかん発作5分以上続くときは救急搬送。	指導員が近くにいない一人作業不可。	〇〇病院 △△医師	ラモトリギン25mg錠(朝夕) …てんかん	最終発作はR6年〇月。朝礼時に意識失い倒れ、全身硬直けいれん6分あり搬送した。睡眠不足時に起こりやすい。

- ① 学年別、部活動別に生徒の保健情報を一覧にまとめた。各学年と部活動のフォルダに保存した。
- ② 個人情報保護のためデータにパスワードをかけた。編集は養護教諭のみが行えるようさらにパスワードをかけた。
- ③ 緊急時に確認できるよう、印刷した資料を1部職員室の鍵付きの棚に保管した。

きっかけ

- ◇生徒の保健情報は紙資料が主体で保健室にて管理しているが、教員に共有しにくい。
- ◇養護教諭不在時に校外の部活動で緊急時対応があった。養護教諭がいなくても情報を確認できるようにしたい。
- ◇教員に保健情報を周知し、緊急時対応への生徒の健康管理への意識を高めてほしい。

活用のポイント

- ◆フィルターを活用することにより、対象者をしばって表示することができる。
- ◆医師からの指示が変更になったときも随時更新できる。
- ◆平常時の情報確認はデータベースで行い、緊急時は紙資料ですぐ対応できるようになり、データと紙のメリットを両立した。

成果（○）と期待（●）

- 教員へ保健情報を共有しやすくなった。担任だけでなく部活動や進路担当者にも周知しやすくなり、生徒の健康管理への意識が向上した。
- 毎年データの保管場所を教員へ周知し、適切に活用されるようにする。
- 医師の指示が変わった時は、口頭での周知も併せて行い注意喚起する。



東京都立水元小令学園